

(様式第1号)

新規調査研究計画書(全体計画)

| | |
|------------------------------|--|
| 調査研究課題 | 茨城県におけるエイズウイルス(HIV)の薬剤耐性変異の動向 |
| 計画期間 | 平成16年度～18年度 3年間 |
| 背景 必要性 | <p>HIV感染症の標準的な治療法として多剤併用療法が定着し、病状の進行を遅延させることが出来るようになった。</p> <p>しかし、多剤併用療法が有効でない症例、即ち薬剤耐性変異株の出現が治療を進めていくうえで深刻な問題となってきた。</p> <p>薬剤耐性検査には遺伝子検査と薬剤感受性検査の2つの方法がある。薬剤感受性検査は、検査の困難性、結果が判明するまでの多大なる時間、コストなどの面から現状では一般化が非常に難しいといわれており、遺伝子検査法の普及が進められている。現在、わが国においては、遺伝子検査法は国立感染症研究所を中心としたごく一部の研究機関でしか研究が行われているに過ぎず、地方衛生研究所にその任が期待されている。</p> |
| 目的 | 本県は、HIV感染症の報告数が全国で第4位とわが国でもHIVの高度感染地域の1つであるため、早急にHIV薬剤耐性の検査体制の確立を図る。又HIVの薬剤耐性変異出現の動向を把握することによって、今後の予測とこれからの課題について検討する。 |
| 計画内容 | <ol style="list-style-type: none">1 保健所を窓口としてHIV抗体検査の依頼のあった検体のうち、保存されている陽性血清について感染HIVの遺伝子解析を行う。(16年度)2 拠点病院等からの臨床検体について同様の解析を行う。(17,18年度) |
| 研究目標 (達成しようとする成果及びその活用方法) | <ol style="list-style-type: none">1 HIV変異株の動向を調べることによって、現在用いられている多剤併用療法の効果の将来予測を可能とする。2 変異株の全国的なモニタリングシステムの構築が予想されるなか、HIVの高度感染県としてその一翼を担うことが出来る体制づくりに努める。3 すでに多くの変異株の出現が確認されているが、エイズ拠点病院をバックアップすることによって、本県のエイズ医療体制の充実に寄与する。 |
| 実施上の課題及び対応 | 効果的な研究成果を得るために、エイズ対策の主管課である県保健予防課と協議する。 |
| 備考 | |

(様式第2号)

平成16年度調査研究計画書(年度別計画)

| | |
|-------------|---|
| 調査研究 課 題 | 茨城県におけるエイズウイルス(HIV)の薬剤耐性変異の動向 |
| 目 的 | 本県は、HIV感染症の報告数が全国で第4位とわが国でもHIVの高度感染地域の1つであるため、早急にHIV薬剤耐性の検査体制の確立を図る。 又HIVの薬剤耐性変異出現の動向を把握することによって、今後の予測とこれからの課題について検討する。 |
| 調査研究 内 容 | 保健所を窓口としてHIV抗体検査の依頼のあった検体のうち、保存されている陽性血清約80検体について、感染HIVの遺伝子解析を行う。 HIVのプロテアーゼ及び逆転写酵素をコードする遺伝子領域を解析して薬剤耐性変異を調べる。 保健所を利用する人は、そのほとんどが未治療であると考えられるので、変異株が検出された場合、感染した株がすでに変異株であったと考えられるため、経年的にHIV変異株の出現をみることによって、その動向が明らかになるものと思われる。現在、標準的に用いられている多剤併用療法の効果の将来予測をするうえで、重要な基礎的データを得ることが出来る。 |
| 備 考 | |